

---

## 6月8日更新 半田市立博物館の学芸員の方々が遺物の借用のため来館しました。

---

調査研究課の尾崎です。

6月6日(月曜日)に半田市立博物館の学芸員の方々が遺物借用のため来館しました。借用の対象になったのは、蛇廻間古窯跡(じゃばさまこようあと)(常滑市蛇廻間)、夏敷古窯跡(なちきこようあと)(常滑市夏敷)、立楠古窯跡(たちくすこようせき)(知多郡美浜町)、奥町F古窯群(おくまちえふこようぐん)(半田市奥町)、刀池古窯跡群(かたないけこようせきぐん)(知多市大興寺)、森岡第1号窯(もりおかだいいちごうよう)(大府市森岡町)、細田古窯群(ほそだこようぐん)(知多郡美浜町)、四池A古窯(しいけえいこよう)(常滑市金山)、桜鐘古窯群(さくらがねこようぐん)(知多市佐布里)、別岨古窯群(べっそこようぐん)(大府市共和町)から出土した陶器です。

これら陶器は、6月11日(土曜日)から8月31日(水曜日)まで開催される半田市立博物館の企画展『知多の古窯2』に展示されます。

### ぜひ半田市立博物館へ足を運んで下さい！

\* 蛇廻間(じゃばさま)古窯跡: 平安時代末に操業したと推定される窯跡。甕、広口壺、片口鉢、山茶碗などが出土した。

\* 夏敷(なちき)古窯跡: 平安時代末に操業したと推定される窯跡。発掘調査によって保存状態が良好な窯体が検出された。出土したものとして、甕、広口壺、長頸壺、片口鉢、山茶碗などが出土した。

\* 立(たち)楠(くす)古窯跡: 鎌倉時代前期に操業したと推定される窯跡。灰原(失敗品が捨てられる場所)のみが発掘調査されている。山茶碗、小皿が多く出土している。

\* 奥町(おくまち)F古窯群: 平安時代末に操業したと推定される窯跡群。窯の断面と灰原が部分的に調査されている。山茶碗、甕・壺類などが出土している。

\* 刀(かたな)池(いけ)古窯跡群: 鎌倉時代前期に操業したと推定される窯跡群。6基の窯体が検出されている。山茶碗、小皿、甕、壺などが出土した。

\* 森岡(もりおか)第1号窯: 平安時代末から鎌倉時代に操業したと推定される窯跡。灰原のみが部分的に調査されている。山茶碗、小皿、鉢、壺などが出土した。

\* 細田(ほそだ)古窯群: 平安時代末から鎌倉時代初期に操業したと推定される窯跡群。窯体3基と灰原が検出されている。山茶碗、小皿などが出土している。

\* 四(し)池(いけ)A古窯: 鎌倉時代に操業したと推定される窯跡。調査時には、窯体及びその関連施設は破壊されており、わずかに床面のみが検出された。甕・壺類などが出土している。

\* 桜(さくら)鐘(かね)古窯群: 鎌倉時代に操業したと推定される窯跡群。7基の窯体が検出されている。出土遺物は、壺、甕、鉢が中心であり、これに山茶碗、小皿が加わる。

\* 別岨(べっそ)古窯群: 平安時代末～鎌倉時代前期に操業したと推定される窯跡群。3基の窯体が検出されている。山茶碗が多く出土している。



資料借用の様子



— 知多半島の中世古窯 —  
協力 愛知県陶磁美術館  
愛知県埋蔵文化財調査センター

平成28年 6/11土  
▶ 8/31水  
休館日 | 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日休館)

半田市立博物館  
愛知県半田市朝ヶ丘4丁目209番地の1  
TEL (0569) 23-7173

八尋山窯跡出土  
愛知県陶磁美術館所蔵

---

6月8日更新 愛知東邦大学で出前授業を行いました。

---

調査研究課の尾崎です。

6月3日(金曜日)、6日(月曜日)に**愛知東邦大学で出前授業を行いました**。人間学部、経営学部、教育学部の歴史学の受講者を対象として行い、3日に98名、6日に41名の学生を対象に実施しました。

今回は、「本物に触れ、質感等を感じることで歴史への興味・関心を高めること」「土器の使われた時代、用途について類推し、歴史的思考力を養うこと」「遺跡の発掘調査や埋蔵文化財について知ることにより、歴史的視野を広げること」を目標に、「**実物に触れる歴史学習～古代の塩づくりを学ぼう～**」という主題で授業を行いました。

授業では、**東海市の松崎遺跡から出土した飛鳥時代～平安時代の製塩土器を用いました**。

はじめに考古学、埋蔵文化財についての概要を説明し、「**マップあいち**」を用いて愛知東邦大学周辺の遺跡を紹介しました。

その後、製塩土器の特徴を観察しながら、土器をスケッチしてもらい、クイズ形式で「何のために使われた土器なのか」「どこでどのように使われたのか」を答えていただきました。

以下に授業アンケートに書かれていた学生のみなさんの感想をいくつかあげます。

- ・土器などに触り、スケッチをして、質感、重さを自分自身で実感することで、どのように、またどこで使われたのか考えることができました。その時代のものに触れることによって時代を感じる事ができたとし、一生に一度あるかないかの貴重な時間でした。
- ・直接土器に触れることによって当時何をしていたのか、どのように使われていたのかを深く考えることができた。もっとこのような機会を増やして欲しいと感じた。
- ・愛知東邦大学周辺にもたくさん遺跡があることに驚きました。今日触った土器はいろいろな所にひびが入っていて、ちょっと力を入れたら壊れてしまいそうな感じがしたけど、実際はすごく丈夫でした。発掘された土器の形や付着物などで、当時どこで、どのように使われたのかが分かることがすごいなと思いました。考古学は文系の学問だと思っていましたが、理系ともかかわりがあることを知りました。



出前授業の様子

---

6月8日更新 大阪大学埋蔵文化財調査室の中久保先生が資料見学のため来館されました。

---

調査研究課の尾崎です。

6月3日(金曜日)に大阪大学埋蔵文化財調査室の中久保辰夫先生が資料見学のため来館されました。

今回見学の対象になったのは、**志賀公園遺跡**(名古屋市北区)から出土した**須恵器**、**土師器**です。来館の目的は、5世紀代の土器を考えるうえで重要な志賀公園遺跡出土の土器を、今後の研究に活かすためです。



資料見学の様子

**志賀公園遺跡出土の土器は、当センター2階の資料管理閲覧室で展示をしております。**ぜひ見学に来てください！当センターでは、今後も資料見学を受け付けていますので、御活用下さい。

\* 志賀公園遺跡: 弥生時代、古墳時代、中近世にわたる複合遺跡。遺構としては、弥生時代中期、古墳時代中期の水田跡、飛鳥時代～古代にわたる自然流路などがあげられる。遺物に関してこの遺跡で特筆すべきは、5世紀前半に遡る須恵器(初期須恵器)が発見されたことである。これら遺物は、大陸系の文化、技術の導入を明らかにするうえで重要である。

---

**6月8日更新 愛知県立津島北高等学校の橋本先生が、当センターの資料を用いた授業を実施されました。**

---

調査研究課の尾崎です。

5月30日(月曜日)、愛知県立津島北高等学校の橋本先生が、**当センターの資料を用いた授業を実施されました。**

今回使用された資料は「土器・ど・キット」です。「土器・ど・キット」は、無作為に抽出した縄文土器、弥生土器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、天目茶碗、陶器などの破片を観察し、時代順に並べる「活きた歴史資料」を使った教育コンテンツです。事前に調査センター職員から資料の使用上の注意事項や授業での活用方法などの説明を受たうえで、当日の授業に臨まれました。

後日、生徒さんたちが実物に触れた時の感想を送っていただきましたので、以下に紹介します。

- ・初めて土器を見て触れた。こんなにもきれいな状態で発掘されていて驚いた。遺物を見ないと、言葉では分かりにくかったけれど、今日の授業で実物を見て、変化がよく分かった。色はどうやって付けたのかが気になった。
- ・触り心地は土の感じがするものと、つるつるしているものの2種類があり、区別するのが非常に難しいなと思いました。時代が近代に近づくにつれきれいになっていくと思いきや、そうではないことに驚きました。また、2千年前も昔の人が作った土器に触れる機会はめったにないので今回の授業はとても楽しく面白かったです。
- ・縄文時代から江戸時代までの土器・陶器を見比べてみて、明らかに進化しているのが分かってすごいと思いました。時代ごとで見事に形式が違うので、発掘調査をして時代が分かる理由がつかめた気がします。だんだんと丁寧になっていく様は日本人らしさが出ていていいと思います。地中に昔のものが眠っているのは不思議だと感じました。



## 土器・ど・キット

当センターでは「土器・ど・キット」の貸出を行っています。「授業で活きた歴史資料である本物の土器を用いたい！」と思われましたら、当センターまで御連絡ください。

担当: 調査研究課(尾崎)

TEL: 0567-67-4164(ダイヤルイン)

FAX: 0567-65-1841

MAIL: maizoubunkazai@pref.aichi.lg.jp

---

### 6月1日更新 弥富市立十四山中学校の生徒さんたちが職場体験に来ました。

---

調査研究課の尾崎です。

5月25日(水曜日)に**弥富市立十四山中学校の生徒さんたち3名が職場体験に来ました**。はじめに開講式を行いました。生徒のみなさんたちからは、「これから3日間一生懸命仕事に取り組むぞ」という思いが伝わってきました。

開講式を終えた後、午前中はガイダンスを行いました。

ガイダンスでは、まず調査研究課長から埋蔵文化財とは何か、調査センターの仕事と発掘調査について学びました。その後、所長の案内で調査センター内を見学しました。所長、調査課長が話されることにしっかりと相槌を打ち、目を見て話を聞いている姿が、自分が考古学を初めて学んだ時の姿と重なり、とても印象的でした。

午後からは、**土器の接合作業**を行いました。

土器の接合作業はやってみるとよくわかるのですが、大量の土器片の中から、接合できる土器を探すのが大変で、なかなか接合できないのです。生徒のみなさんも身をもってそれを感じているようでした。

それでも作業に慣れてくると、生徒のみなさんは土器を次々に接合し、何とも言えないうれしさを感じていたのが分かりました。



2日目の5月26日(木曜日)は、午前に**土器の拓本、実測**、午後からは**自然科学分析**に取り組みました。

土器の**拓本、実測**は、調査センターで働く作業員さんに教わりながら行いました。拓本、実測ともに初体験だったのにも関わらず、生徒のみなさんは作業手順の覚えがとても速く、スムーズに作業していたのが印象的でした。これからの中学校生活、高校生活では拓本、実測をすることは無いと思いますが、大学へ進学したらぜひ再挑戦してもらいたいものです。

3日目の5月27日(金曜日)は、**資料の貸出・返却作業、普及公開活動の準備・実践**に取り組みました。

**資料の貸出作業**は、調査センターで働く作業員の方にまず手順を教わり、借用希望のある資料を取り出す作業を行いました。収蔵庫の中には広く、大量のコンテナがあるのですが、生徒のみなさんはその中から一人一人が割り当てられた資料を見つけ出すことができました。この日は資料の返却作業があったので、貸し出していた資料をもとのコンテナに戻す作業にも取り組んでもらいました。

**普及・公開活動**では、この日に来館されたローズ倶楽部のみなさんに、**土器の接合、実測、拓本の方法や、朝日遺跡出土の銅鐸**について解説してもらいました。

たくさんの人に解説するのが初めてで、緊張しているのが私にも伝わってきましたが、3人とも的確に解説できて、本当に驚きました！

最後に3日間の取り組みについて感想文を書いてもらい、その後閉講式を行いました。

当センターでは本年度から中学生の職場体験を受け入れ始めましたが、生徒のみなさんに私たちの仕事を知っていただく良い機会であると感じました。**私たちの次の世代にも考古学に関心を持っていただき、ぜひこの仕事を志してもらいたいと思います。**

この3日間、職場体験に協力して下さった埋蔵文化財センターのみなさん、ありがとうございました。

6月には**弥富市立弥富北中学校の生徒さんたちが職場体験にやってきます**。その様子もアップしていきますので、どうぞ御覧ください！







一段目(左):土器の接合の様子

一段目(右)、二段目(左):拓本の様子

二段目(右)、三段目(左):土器実測の様子

三段目(右):化石を取り出している様子

四段目(左):土壌洗浄の様子

四段目(右):資料の貸出の様子

五段目(左):ローズ倶楽部のみなさんに説明している様子

五段目(右):感想を書いている様子

---

## 5月31日更新 ローズ倶楽部のみなさんが来館されました。

---

調査研究課の尾崎です。

5月27日(金曜日)の午後に**ローズ倶楽部のみなさんが来館されました**。はじめに調査研究課長が調査センターの仕事、発掘調査について説明した後、調査センター内を見学していただきました。収蔵庫を見学したときには、コンテナがたくさん積んであるのを見て、みなさん驚かれていました。

休憩をはさんで、**朝日遺跡から出土した土器に触れること、拓本をとること**に取り組んでいただきました。土器に触れながら「この土器はこうやって使ったのではないか」などの意見が飛び交っていました。拓本は初めての方が多かったのですが、きれいにできあがっている方が多いように思いました。

調査センターでは今後も施設の見学、体験学習を希望される方をお待ちしております。よろしくお願いします！





一段目(左):ガイダンスの様子

一段目(右)、二段目(左):土器に触れている様子

二段目(右)、三段目(左):拓本をとっている様子

三段目(右):施設見学の様子